

42. 伊吉ハゼの果粒の変異について

福岡県林試 小 川 保 喜

I ま え が き

ハゼ *Phus succedanea* L. の 1 品種「伊吉」の果房には、果粒の大きさの変異があまりに著しいように感ぜられたので、その変異状態を 2~3 の他の品種と比較調査した。

その結果、「伊吉」には他の品種に見られる普通の彷徨変異とは異つた変異状態があることが分つたので、その原因をしらべている。まだ不十分なところが多いが、一応報告する。

II 果粒の変異状態

1) 材料および方法

1. 昭和 29 年 10 月 21 日、福岡県林業試験場長峯試験地圃栽の「伊吉」の 4 株から各株 5 房（ここにいう 1 房とは、果粒をつけた果梗が枝の上部に集りついている 1 群をさす）づつを、また「葡萄」と「昭和福」とのいずれも 5 株から各株 1 房づつを採取した。

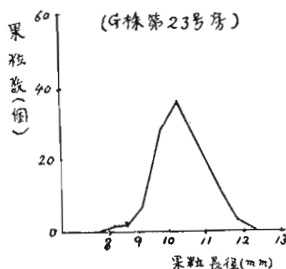
2. 同月 25~28 日、1 房を 1 群として各果粒の長径をノギスで測り、変異の階級を 0.5mm おきにとつて、各階級に属する果粒数をかぞえた（「伊吉」の果粒は大小にかかわらず相似形である旨の本試験場山内技師の報告があるので、果粒長径の長短を果粒の大小と記すことがある）。

2) 結果ならびに考察

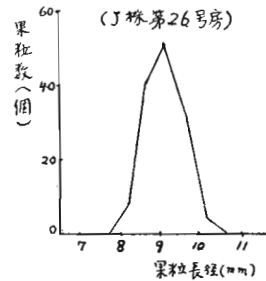
1. 上述の測定により「葡萄」と「昭和福」とほどの房についても第 1 図、第 2 図と似た彷徨変異を示す曲線を描く結果を得た。

2. 「伊吉」については、そのどの房の測定結果を見ても、第 3 図に示すような二頂曲線を描くところの変異状態のあることが分る。

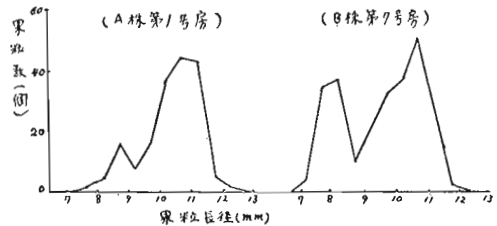
第 1 図 「葡萄」果粒の曲線



第 2 図 「昭和福」果粒の曲線



第 3 図 「伊吉」果粒の二頂曲線



3. このような二頂曲線が出来るのは、大きさの可なり異つた 2 型の果粒が同じ房にまじりついている為であると考えられる。

4. 一般にこのような現象の起る原因については種々考えられているが、本例の場合は授粉作用が不均等に行われた為ではないかと思われるのである。

III 「伊吉」の変異の原因

果粒の変異と授粉作用との関係を探るために袋かけ試験を行った。

1) 材料および方法

1. 昭和 31 年 5 月 18 日、長峯試験地において、開花前の「伊吉」の 4 株から各株 5 房づつを、また「葡萄」と「昭和福」との各 5 株から 1 房づつを、また試験場隣家の宅地にある「地蔵」の 1 株から 5 房を選んで布製の袋をかけた。

2. 花期が過ぎた 6 月 13 日、袋のかけ方の完否を検してから、袋をとり除いた。

3. 8 月 25 日結実状態を調査した。

4. 10 月 21 日、袋かけの影響でみつけた小果粒のみからなる 19 房（1 房は枝ごと枯損）をとり、1 房毎に果粒の変異状態を調べた。

第 1 表 「伊吉」果粒の変更

母樹 房番 果粒長径 (mm)	A 株					B 株					C 株					D 株				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
6.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
7.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	4	5
7.5	0	6	0	3	4	1	4	7	5	0	1	0	0	0	0	14	3	5	9	17
8.0	2	13	4	6	2	7	34	15	13	1	1	0	0	2	3	48	15	17	38	37
8.5	4	8	6	4	5	5	36	27	21	4	5	4	5	5	15	61	35	32	62	42
9.0	15	14	2	18	13	8	9	7	11	18	24	5	14	12	23	47	60	53	100	59
9.5	7	30	15	22	19	6	19	6	7	10	12	10	3	5	8	8	20	33	22	6
10.0	15	63	18	26	44	13	31	7	28	45	4	8	22	8	9	1	9	16	7	6
10.5	36	46	25	31	45	11	37	8	31	54	8	26	27	31	20	2	1	2	9	12
11.0	44	25	24	34	32	5	50	23	22	42	14	28	31	48	40	10	1	3	7	31
11.5	43	3	17	12	9	5	25	9	5	15	21	19	23	6	8	17	3	6	17	4
12.0	5	0	2	4	2	2	1	0	0	0	4	3	1	1	2	1	0	1	2	0
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2) 結果ならびに考察

1. 袋かけ試験の結果、「葡萄」、「昭和福」、「地樹」には全く結実しなかつたが、「伊吉」にはどの房にも、前記の小型果粒とはほぼ同大のものがみつけた。

2. この小果粒の長径が描く変異曲線は、袋かけしなかつた「伊吉」の果粒のそのように二頂曲線とはならず、単頂曲線のうちの小粒側の曲線とはほぼ一致す

るものとなつた。

3. この小果粒は袋の外からの花粉を受けないでみつけたのであるから、単為結果あるいは自花授粉によつて結実したものと思われる。自然のままの「伊吉」の小型果粒もこれと同じ原因で結実したものである。この点はもう少し明らかにしたいと思つている。

43. ユーカリ育苗の実例

福岡県林試 青 木 繁

1. この記述の目的

パルプ適材、生長迅速の二つの要素に基いて、概して東京以西の無霜地帯における造林樹種として奨励せらるべきであると認められたユーカリ、特に大葉ユーカリ（ロブスタ種）につき、その育苗技術の実例を述べて、今後の研究と造林の実際に資し、これが増殖を推進したい。

2. ユーカリの育苗上の難点

① 直根性であるので、これを抑制し、ひげ根を発達せしめなければならない。

② 上長生長が極めて速いので、俗に云う線香苗となり易い。従つてこれを防ぎ、直径生長を促進しなければならない。

③ 山行に適する良苗を得るには何月頃播種すればよいか。

以上の三つの難点が未解決のまま今日に至つているのが、ユーカリの造林の進展普及しない重大な原因であるのではないかと私は思つている。